

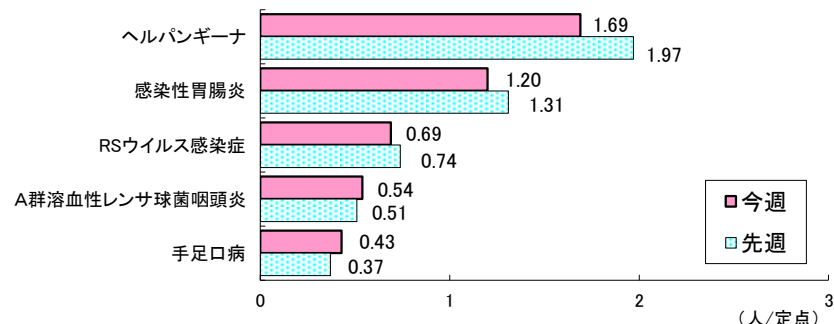


**【第33週の発生動向】**

＜定点把握対象疾患(週報)・前週比＞

- ヘルパンギーナは、県全体で14%減少しています。保健所別では、北秋田、秋田中央、大仙、横手で増加、湯沢で同規模、秋田市、大館、能代、由利本荘で減少しています。
- 感染性胃腸炎は、県全体で8%減少しています。保健所別では、大館、能代、由利本荘、湯沢で増加、北秋田で同規模、秋田市、秋田中央、大仙、横手で減少しています。
- RSウイルス感染症は、県全体で7%減少しています。保健所別では、横手、湯沢で増加、大館で同規模、秋田市、秋田中央、由利本荘、大仙で減少しています。

秋田県の定点医療機関における主要5疾患の発生規模



**発生報告**

＜五類定点対象疾患(週報)＞

(人/定点)

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減			
RSウイルス感染症	0.74	0.69	↘	2.43	2.29	↘	0.25	0.25							1.00	0.50	↘	0.50		↘	0.25		↘	0.33	1.33	↗		0.25	↗	
インフルエンザ	0.02	0.04	↗	0.09		↘																					0.40	↗		
咽頭結膜熱	0.37	0.29	↘	0.43		↘	0.75	1.00	↗	0.50		↘			1.00	0.75	↘	0.25	0.50	↗		0.25	↗				0.25	↘		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.51	0.54	↗	0.71	1.00	↗	1.25		↘						1.00	0.75	↘				0.25		↘	1.00		↘		2.25	↗	
感染性胃腸炎	1.31	1.20	↘	2.00	1.14	↘		0.50	↗	1.50	1.50		4.33	5.00	↗	2.25	1.25	↘		0.50	↗	0.50	0.25	↘	0.67	0.33	↘	0.75	1.25	↗
水痘	0.09	0.17	↗	0.43	0.57	↗										0.25	↗					0.25	↗							
手足口病	0.37	0.43	↗	0.14	0.57	↗		1.00	↗				0.67		↘	2.50	1.25	↘									0.50	↗		
伝染性紅斑	0.03		↘												0.25		↘													
突発性発しん	0.26	0.14	↘	0.43	0.29	↘	0.25		↘	0.50		↘			0.75	0.50	↘		0.25	↗				0.33		↘				
ヘルパンギーナ	1.97	1.69	↘	2.14	0.43	↘	0.50		↘	0.50	2.00	↗	2.33	2.00	↘	0.50	0.75	↗	4.75	2.25	↘	1.75	2.00	↗	3.33	6.67	↗	1.50	1.50	
流行性耳下腺炎	0.11	0.11			0.29	↗	0.25		↘										0.25		↘	0.25	0.50	↗	0.33		↘			
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*	*	*											*	*		
流行性角結膜炎	0.57	0.29	↘	1.00	0.33	↘		1.00	↗	*	*		*	*	*	*					1.00		↘				*	*		
細菌性髄膜炎	0.25		↘												*	*					2.00		↘							
無菌性髄膜炎															*	*														
マイコプラズマ肺炎	1.25	2.25	↗	1.00	6.00	↗				5.00	1.00	↘	1.00	1.00	*	*					2.00	2.00			4.00	↗	1.00	4.00	↗	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)															*	*														
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)															*	*														

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。

「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から2人、秋田中央保健所管内から1人、横手保健所管内から1人、報告されました。
- ・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が湯沢保健所管内から1人、報告されました。
- ・四類感染症のE型肝炎が秋田市保健所管内から1人、つつが虫病が湯沢保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症のアメーバ赤痢が秋田市保健所管内から1人、百日咳が秋田市保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-32週		33週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンコ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	13128	80	4
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
三類	コレラ	3		
	細菌性赤痢	100		
	腸管出血性大腸菌感染症	1936	16	1
	腸チフス	21		
	パラチフス	13		
四類	E型肝炎	271	1	1
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	641		
	エキノコックス症	7		
	黄熱			
	オウム病	5		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	5		
	キャサヌル森林病			
	Q熱	3		
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	2		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	53		
	腎症候性出血熱			
西部ウマ脳炎				
ダニ媒介脳炎	1			
炭疽				

(人)

類型	疾患名	1週-32週		33週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱	1		
	つつが虫病	94	3	1
	デング熱	84		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1, H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	125		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	2		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	2		
	マラリア	28		
	野兔病			
	ライム病	6		
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽	2			
レジオネラ症	1148	2		
レプトスピラ症	3			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	507		1
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	134	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1106	7	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	19		
	急性脳炎	457	6	
	クリプトスポリジウム症	11		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	132	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	451	5	
	後天性免疫不全症候群	794		
	ジアルジア症	47		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	304	1	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	25		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2212	12	
	水痘(入院例に限る)	262	5	
	先天性風しん症候群			
	梅毒	4116	7	
	播種性クリプトコックス症	110	1	
破傷風	70			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	42			
百日咳	4564	21	1	
風しん	139			
麻疹	200			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	13			

トピック

<風しん流行の兆しがみられています>

風しんは、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症です。7月下旬以降、首都圏で30~50代の男性を中心に風しんの発生報告が増加しており、第32週現在の風しん報告数は、全国で139件と、すでに昨年1年間の報告数(93件)を上回っています(表)。2012年~2013年にも、20代~40代の男性を中心に全国的な風しんの大流行が発生しました。夏休みやお盆などで活発に人の往来もあったことから、今後の全国への流行拡大が懸念されています。

【先天性風しん症候群】

免疫を持たない妊娠初期(妊娠20週頃まで)の女性が風しんに感染すると、胎内感染により赤ちゃんが**先天性風しん症候群(CRS)**となる場合があります。CRSは、難聴、心疾患、白内障などの障がいをもって出生する疾患で、出生後の発育に遅れが見られることもあります。2012年~2013年の流行の際には、CRSが多数報告されました。

【予防】

風しんの予防には、**予防接種**が最も重要です。妊娠を希望する方で、接種歴等が不明な場合は医師に相談し、接種をご検討ください。また、CRSの発生を防ぐためには、周囲の人の感染予防も重要です。風しんは感染しても全く症状が現れないこともあるため、知らずに感染を拡げてしまう可能性があります。妊婦の感染リスクを減らすため、周囲にいる夫や家族、職場の同僚なども、風しんの免疫が十分でないとわかった場合は、ぜひ接種をご検討ください。

1歳(第1期)と小学校入学前1年間(第2期)の幼児は、定期接種に定められているため、公費負担で接種を受けることができます。来年の4月に小学校に入学するお子さんは、入学準備の1つとして確実な接種の実施をお願いします。

表 全国の風しん報告数(2009年~2018年)

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
報告数(件)	147	87	378	2,386	14,344	319	163	126	93	139

※2018年は第32週現在

つつが虫病情報

つつが虫の発生報告が2件ありました。

No.3	
届出年月日	平成30年8月3日
患者の住所	横手保健所管内
患者の年齢	40代
性別	男性
症状	発熱、リンパ節腫脹、発疹、刺し口(右背部)
診断年月日	平成30年8月2日

No.4	
届出年月日	平成30年8月20日
患者の住所	湯沢保健所管内
患者の年齢	80代
性別	男性
症状	頭痛、発熱、発疹、刺し口(右胸部)
診断年月日	平成30年8月16日



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
ヘルパンギーナ	-	由利本荘(2.25)、横手(6.67)

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	4	7	4	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大湯村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		